

A. 主な動き

1. 内政

・16日、ギンプ自由党党首及びシルブ共産党議員は、両党は無所属のドドン議員グループ4名及びミシン議員グループ3名によって結成が発表された無所属議員による新会派を承認しない意向である旨発言。

2. 経済

▼マクロ経済

・19日、経済省は、来年のGDP成長率の予測をマクロ経済状況の悪化により5.0%から3.5%に下方修正した旨報告。

▼国家予算

・19日、議会は、2013年の国家予算に関する法案を承認。国家予算の歳入は227億レイ(約18億ドル)、2012年予算との比較では8.1%の上昇であり、歳出は236億レイ(約19億ドル)。予算不足額は9億レイであり、GDPの1.14%。

3. 外政

▼フィラト首相のルーマニア訪問

・17日、欧州人民党大会に出席のためルーマニアを訪問したフィラト首相は、ポンタ・ルーマニア首相と会談し、ガス・パイプライン及び高圧送電線建設等の両国共同計画に関し協議。両首相は、ヤシ・ウンゲニ間パイプラインの2013年末の稼働に向けた行動計画作成のための専門家による合同部会を設置することで合意。フィラト首相は、モルドバの干ばつ被害に対しルーマニアから小麦1万トン及び5万ユーロの支援提供があった旨発言。

▼エネルギー関連

・15日、ドゥツ・ルーマニア国家鉱物資源庁長官は、キシナウを訪問し、フィラト首相との会談においてルーマニアはヤシ・ウンゲニ間パイプライン建設期間を2013年2月～11月とする計画である旨発言。

・15日、フィラト首相は、エッティンガー・エネルギー担当欧州委員と電話会談し、18日のエネルギー共同体閣僚会合の議題に関し協議。エッティンガー委員は、EUはエネルギー安全保障強化に向けたモルドバの近代化計画を支援する旨、また、近日中にモルドバを訪問する意向である旨発言。

・18日、エネルギー共同体は、モンテネグロにてエネルギー共同体閣僚会合を開催し、第3次エネルギー・パッケージ(注:EU域内での電力及び天然ガスの自由な流れの確保のための生産・輸送・販売の事業分割及びエネルギー規制当局の独立性の強化等に関する一連の義務事項)のモルドバの履行猶予を天然ガス関連分野に限り2020年まで延長する旨決定。

・19日、ラザル副首相兼経済相は、CIS電力エネルギー会議に出席のためミンスクを訪問し、ノヴァク露エネルギー相と会談。双方は、エネルギー分野における両国政府間協力協定及びロシア産天然ガスのモルドバへの供給に関する新契約締結の見通し等に関し協議。

4. 沿ドニエストル

・17日、グバレフ沿ドニエストル問題担当露大使は、関税同盟を基礎とした「ユーラシア同盟」への沿ドニエストル地域の参加は可能であるとする見方を提示。

・18日、シェフチューク「大統領」は、モスクワを訪問し、沿ドニエストル問題に関する会合において露下院議員と沿ドニエストルのユーラシア統合、ロシア・沿ドニエストルの社会・経済関係発展、沿ドニエストル住民の権利及び自由の保護等に関し協議。

・19日、カルポフ国家再統合問題担当副首相は、ティラスポリのOSCE事務所においてシュタンスキ「外相」と会談し、経済・金融、交通・運輸問題等に関し協議。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。

(了)